

今年度2回目の講座が1月26日

坂戸市文化施設オルモで開催されました。

講師 シャローム病院院長 鋤柄稔先生

始めに先生の手品や腹話術で、和んだ空気に包まれた後、テーマ「痛みの緩和と寄り添いについて」お話下さり、皆耳を傾けました。診療所からホスピスを兼ねた病棟設立の経緯、シャローム病院の理念や使命などについて拝聴しました。また、シャロームの元職員で、現在同病院でボランティア活動をしている伊澤澄子さんもお越し下さいました。鋤柄先生自作のCDを聴かせていただき、伊澤さんのマンドリン、先生のハーモニカで合唱し参加者32人の歌声が響き渡りました。

第二部では、鋤柄先生へ原山代表がインタビュー形式で質問し、先生の様々なおもいを語っていただきました。

講座係 山崎

シャローム病院に寄せて 細貝泰子(会員)

「ここでゆっくり休んで下さい。」十六年前の四月、転院したシャローム鋤柄医院(当時)の鋤柄院長の言葉で始まった三週間足らずの入院生活は奇跡のような日々でした。「痛みがあつたらすぐとりますからね。」との言葉通り、夫は痛みから解放され、音楽を聴き、読書をして過ごしました。栄養補給の点滴を止めたら普通食が食べられるようになりました。「まるで天国のようです。」と言う夫に、鋤柄先生は夜ベッドに傍らで天国に話をして下さったのです。夫はどんなにか慰め励まされたことでしょうか。心より感謝いたします。現在シャローム病院にはチャプレンが常し祈りに満たされています。